

# 越前和紙

## 【産地組合】福井県和紙工業協同組合

### （産地紹介）

今から 1500 年程前、この村里の岡太(おかもと)川に美しい姫が現れて紙漉(す)きの技を教えたと言われています。奈良時代には、仏教の経を写すための写経用紙として使用されました。その後、武士が紙を大量に使い出す時代になる頃には、紙漉きの技術、生産量も向上して「越前奉書」等高い品質の紙が作られるようになり、紙の産地として幕府や領主の保護をうけて



発展しました。近代では、横山大観を始めとした多くの芸術家たちに強く支持され、全国にその名が知られています。

福井県越前市にある不老(おいず)、大滝、岩本、新在家、定友は古くから五箇と呼ばれ、美しい越前和紙の里として知られています。

手すき和紙として、全国有数の規模を誇り、楮、三桮、雁皮、麻を原料にトコロアオイの粘液を加えて、溜め漉き、流し漉きにより、越前奉書をはじめ襖紙、小間紙など他品種の紙を生産している。

温かみに満ちた優雅な肌合い、また紙そのものの持つ風格、強靭さ等言葉では言い表せない「生成(きなり)」の豊かな感性を持ち、「日本文化」が息づく和紙です。

### （トピック）

- ・ 2004年10月から、和紙の製品・商品にトレーサビリティ（生産履歴管理）を導入しています。誰が紙を漉き、どんな原材料、薬剤を使ったのかという製造や流通情報を組合のHPからも検索できます。安全な和紙であることを消費者にアピールしております。